

# 第16次中期3カ年計画

2025年2月1日 ▶▶▶ 2028年1月31日


農業戦略計画 / JA経営計画




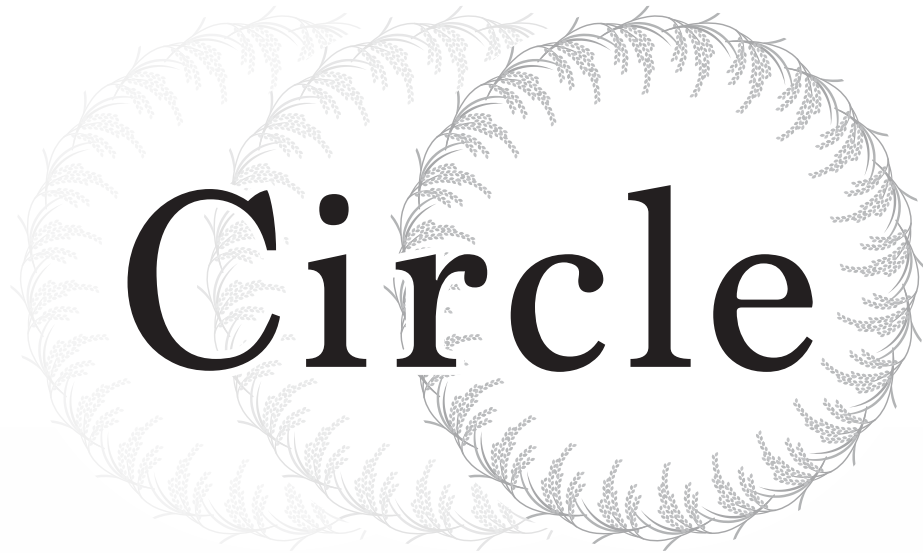
## Circle

サークル

組合員とJAが協力し合い  
互いに支え合う協同の輪を築けるように

 JAなんぽろ

 JAなんぽろ



# 第16次農協事業中期3カ年計画の策定にあたって



南幌町農業協同組合  
代表理事組合長  
林 裕司

わたしたちJAなんぼろは、南幌町の基幹産業であり、人間が生活する上で欠かすことができない食糧を生産する重要な産業である「農業」を営む組合員の営農、生活する上での願いや不安の受け皿としての機能を発揮することはもとより、地域における生活基盤を支えるため、“最幸の信頼・利用・満足を実現し、組合員と地域社会に安心をお届けする”ことを経営理念として事業運営しているところです。

近年の農業・農村を取り巻く環境は世界的な気候変動による猛暑や豪雨などにより国際的な食料需給事情の変化や急激な円安の進行による生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えております。また、昨年は農政の憲法とも言われる食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障の確保、農業生産の基盤等の確保、食料の合理的な価格の形成が基本理念として規定されるなど、日本の農政は大きな転換点を迎えております。

このような状況のなか、第31回JA北海道大会で決議されたJAグループ北海道の将来ビジョン「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」～ひとを育み、ひとと歩む～を踏まえ、この中期計画が過程から結果そして新たな始まりとなるための循環と、人と人の良好で円滑な繋がりを願い「Circle (サークル)」と命名し、メインテーマとした「持続可能な南幌町農業とJA経営基盤の確立」を組合員はじめJA役職員が一丸となって実践するために策定しました。

国の農業予算も含めた食料政策等は刻々と方針が変更されていき、先行きが解りづらい状況ではありますが、農業戦略計画の確実な実践による組合員経済とJA運営の好循環「Circle (サークル)」に向け、組合員との対話を重視し、各関係機関との緊密な連携による生産基盤の安定を目指して事業展開してまいりますので、組合員皆様の特段のご理解とより一層の結集をお願いし、第16次農協事業中期3カ年計画の策定にあたってのご挨拶とさせていただきます。

## 目次

第16次農協事業中期3カ年計画の策定にあたって	1
第16次農協事業中期3カ年計画の概要	2～3

### 農業戦略計画

□農業戦略計画の概要	4～5
□米について	6～7
□小麦について	8
□大豆について	9
□野菜について	10
□その他の取り組み	11
□農業振興策事業	12
□作付計画面積	13
□販売取扱高目標	14

### JA経営計画

□事業別計画	
◎資材・燃料事業	15
◎信用・共済事業、内部監査・総務事業	16
□固定資産整備計画	17
□事業収支計画	18
□経営諸比率表	19

# 第16次農協事業中

第16次中期3カ年計画では、第15次中期計画の内容の精査はもとより、現状までの実績に基づき協議を行い、農業戦略計画では、現状までの取り組みを持続、発展、循環させるための方策と計画では、JAを取り巻く経営環境の変化に対応するため、組合員の要望に応えるべく農産関連

## 農業戦略計画を検討するにあたり

- ◆ 蔬菜園芸組合役員との意見交換による要望等の聞き取り
- ◆ 本年も含めた今後の米の生産調整や農産物の作柄および販売情勢等の課題を委員から抽出
- ◆ 第31回JA北海道大会組織討議より今後の動向を確認

中期計画メインテーマ

## 持続可能な南幌町農業と

### 農業戦略計画

- ① 中長期的な農地流動状況を踏まえた農業経営支援
- ② 水張り面積維持に向けた方策提案（需要に合わせた米の作付による所得確保）
- ③ 蔬菜作付面積維持に向けた支援策提案（既存施設等の有効活用に対する支援）
- ④ 品質・収量向上方策の提案（適正な輪作体系の推進、技術支援対策の情報提供）

# 期3カ年計画の概要

く課題の積み残しを整理しながら「現状の南幌町農業を踏まえて、今後、何をすべきか」を基本として、需要に応えるための供給を確保していく取り組みに重きを置き各方策を策定し、JA経営施設の整備、経営基盤と人材の安定を目指すこととし、本中期計画を策定・提案いたします。

## 南幌町農業とJAの現状と課題

- 高齢化の進展・離農による農地の移動に伴い、水稻、蔬菜の作付面積が減少
- 物価の上昇による諸経費の増加
- 秋小麦の過作・連作による減収、品質の低下、需要量の変化
- 農業政策、主食用米の情勢が不透明
- 水稻の品種別作付面積(主要品種)の減少、水活の対応による直播栽培の増加
- 農産関連施設の老朽化や組合員ニーズに対応した受入体制（雑穀：大豆）が万全でない
- 信用共済事業収支の減少、システム変更に伴う態勢変化への対応
- 安定した収益構造を確立することによる経営基盤の確立

## JA経営基盤の確立

### JA経営計画

- ① 農業用関連施設の稼働率維持と計画的な固定資産取得・修繕
- ② 農産関連施設（雑穀等の荷受場所等）と資材関連施設の集約検討
- ③ 信用共済事業の更なる拡大における新商品の検討と推進
- ④ 事業管理費率の適正化に向けた収益増加策および費用削減策の検討
- ⑤ 業務効率化による労働環境の改善と前向きな業務姿勢による働きがいのある職場づくり

# 第16次農協事業中期 輪作による明るい未来、持続可能 収量増加を目指して 適正輪作を!



# 3カ年計画 農業戦略計画 な農業への協同の輪 (Circle)

## 米について →P6

- ▶繁忙期作業の軽減と適期作業による収量安定と作付面積の維持
- ▶作付技術の向上等による所得の安定確保
- ▶ロットによる有利販売で手取り増加
- ▶グリーン農業の取組を継続

## 小麦について →P8

- ▶適正輪作による収量格差是正と所得の安定化

## 大豆について →P9

- ▶受入状況改善による適期収穫
- ▶品質向上による所得増加

## 野菜について →P10

- ▶各種支援による生産基盤の維持
- ▶収穫作業の省力化と契約販売による安定収入の確保
- ▶長ねぎの選果選別作業の負担軽減
- ▶収量、品質の向上

## その他の取り組み →P11

- ▶農地流動化による耕作放棄地の防止
- ▶就農者の確保、農業経営費の抑制
- ▶収量、品質の均質化に伴う農業所得の安定確保
- ▶農作業の振返りと効率化、営農指導部門への情報集約と効率的営農指導

# 米について

## 南幌町の米の現状

南幌町の米生産農家数は、平成27年の147戸から減少し続け、令和6年には119戸と10年間で28戸減少しています。JAへの米総出荷量も平成27年には193,876俵ありましたが、令和6年には158,852俵と35,024俵減少しています。さらに、円安やウクライナ情勢による輸入原料の価格上昇で水稲の生産に必要な肥料等の価格が大幅に上昇しており、労働環境も含め水稲生産者の経営を取り巻く環境はますます厳しい状況になっています。

また、今後の米価の状況によっては水稲生産者に及ぼす影響が懸念されますので、引き続き動向については注視しなければいけません。

## 需要に合わせた米の作付けによる所得確保!

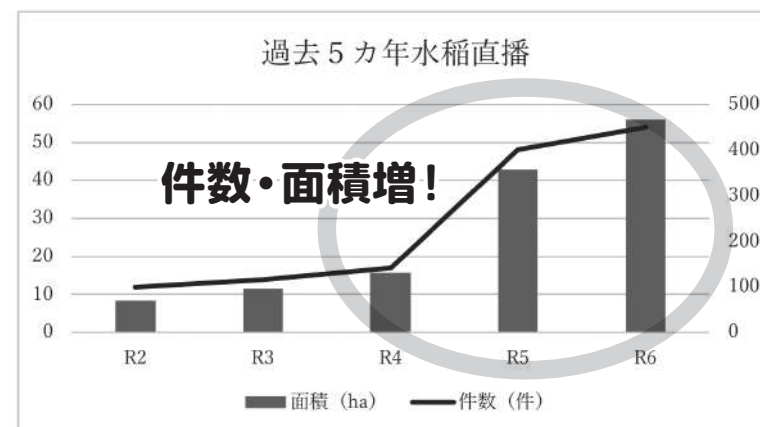
- ①栽培講習会等を活用した直播栽培の収量高位平準化に向けた対応
  - ・米の生産を維持・拡大するためには、「低コスト・省力化」が重要。直播栽培技術等の共有・研鑽の取り組みを行います。
- ②有利販売で手取り増加へ品種集約による大ロットの確保
  - ・品種集約選定の検討を行い、実需者への安定供給を果たすことでより強い信頼関係を築きます。
- ③系統を通じた直播品種の販売強化
- ④種子温湯消毒機更新による作業集約化
- ⑤天晴れで適期収穫判断

生産意欲を喚起する農業所得を安定的に確保  
担い手に魅力のある南幌水田農業の実現



## 水稲省力化技術の現状

第15次中期計画期間では直播栽培面積が大幅に増えました。



直播栽培の省力化率は  
慣行と比べて60%!



今後も直播栽培は一定の面積を維持する見込みです。

一方で課題も見えてきました  
栽培技術に関する情報が少ない…  
圃場や様々な要因から収量や品質にバラツキが出ることも…

第15次中期3カ年計画ARCHでは



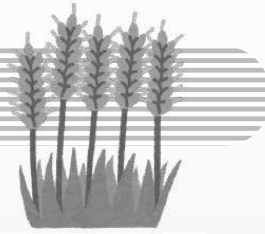
JAなんぽろホームページにて、展示圃場の栽培状況を情報と写真で提供してました。

## 今回の中期計画では

- ・生産者間の情報共有を密に行えるよう体制整備をすすめます!
- ・現地研修会等、実際の圃場で栽培技術を学べる場を提供します!
- ・その他、直播栽培の最新技術の取得を後押しします!
- ・直播栽培以外の省力化技術(疎植栽培・密播中苗等)の技術も後押しします!



# 小麦について



## 南幌町の小麦の現状

近年において小麦の収穫量は増加傾向ですが、一方では気候の影響を受けやすく品質・収量の安定生産が課題となっています。

さらに、病害も課題となっており、収量を減少させている要因となっているため適切な対策が必要です。

## 品質向上・安定生産に向けた取り組み！

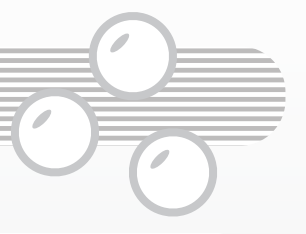
- ①田畑輪換等による小麦の減収、病害等への対応
  - ・適正輪作による収量格差の是正
- ②天晴れで起生期追肥判断、収穫適期判断による品質収量の安定

### ★検討事項

- ①需要減のため春小麦（はるきらり）からの他作物への作付転換



# 大豆について

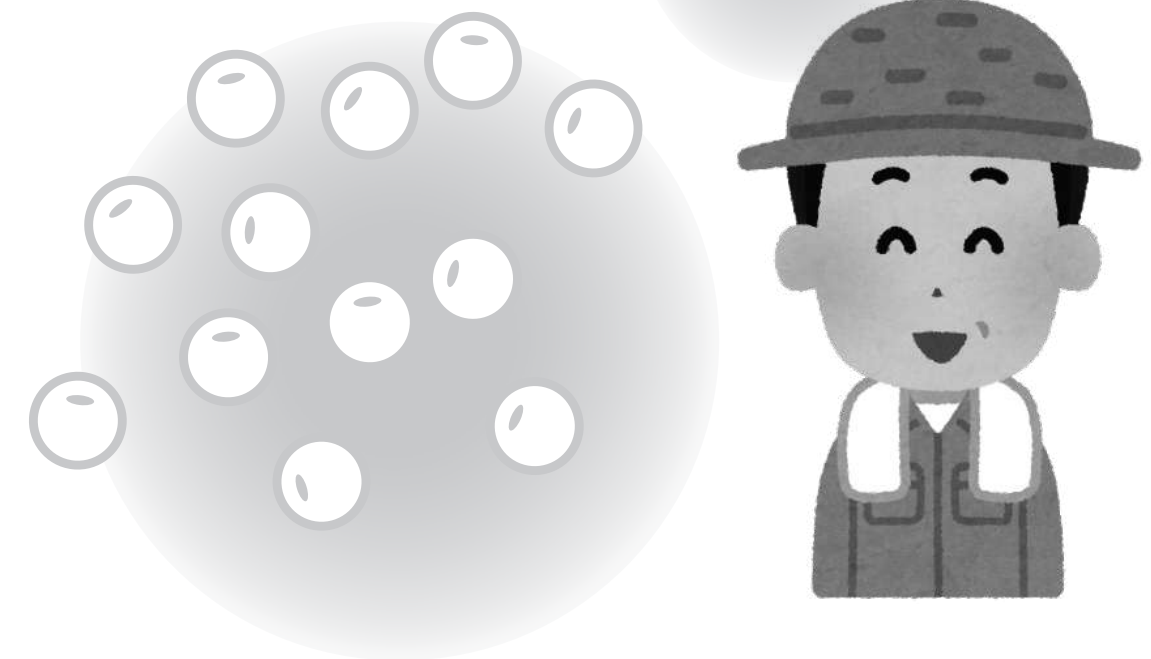


## 南幌町の大豆の現状

転作作物として重要な位置づけである大豆については、中長期的に需要が増大しています。今後においても用途別のニーズに応じた品種の選定や収量・品質の向上を図り、需要に応じた高品質な大豆の安定生産を進めていく必要があります。

## 品質向上・安定生産に向けた取り組み！

- ①安定した荷受場所の確保
  - ・受入状況改善による適期収穫
  - ・安全で円滑な受入体制の構築
- ②良品質大豆生産への支援拡大
  - ・品質向上に向けた技術講習会の開催
  - ・品質向上による所得増加



# 野菜について



## 南幌町の野菜の現状

経営面積の拡大に伴う作付体系の変化により面積が減少している状況にあります。南幌町はキャベツをはじめ、長ねぎ、ブロッコリー、ピーマン、玉ねぎも道内及び道外市場より産地として評価を得ていますので、今後も各部会と協力し産地を維持してまいります。

## 野菜振興の取り組み！

### ①新規作付者への支援

新たな挑戦にかかる費用負担を軽減し作付支援を行います。

### ②既存生産者への支援

面積拡大にかかる費用負担を軽減し生産意欲を高めます。

### ③長ねぎ共選場利用者への支援

長ねぎ共選場より出荷販売した正品に対する助成支援により原料確保に取り組めます。

### ④加工業務用野菜の取組拡大

生産者が取り組みやすい品目提案を行い、機械一貫化体系による作業省力化、取組拡大をめざします。

### ⑤圃場に適した品種選定のための作付試験

新品種・推奨品種の作付試験を継続的に行いながら、各品目の収量・品質向上に向け品種選定に取り組めます。



# その他の取り組み

## ①中長期的な農地流動状況を踏まえた農業経営支援

経営面積拡大に伴う作付体系の変化に対応した将来の経営シミュレーションを強化します。

## ②経営移譲への円滑な対応

経営移譲を見据えた法人も含む若年層の世代に対し、法人会、青年部を通じた研修会を開催します。

## ③個々の経営に合わせた適切な事務及び金融支援の実施

組合員宅訪問等により現状確認と将来展望把握に基づいた適切な金融支援を検討します。

雇用就農資金を中心とした、雇用に関する各種政策等の把握と事務支援を行います。

## ④農業用関連施設の稼働率維持と計画的な固定資産取得・修繕

計画的な固定資産の更新、補修を実行します。施設稼働を加味した各部門採算の再精査を行い、利用料・手数料等の利用者負担の見直しを検討します。

## ⑤農業関連施設（雑穀等の荷受場所等）と資材関連施設の集約検討

組合員の利便性向上と業務の効率化及び、コストの低減に向け、各拠点施設の集約を検討します。

# 農業振興策事業

## 1. 永続できる農業経営支援

- ・新規就農者激励会
- ・各種研修会参加支援
- ・結婚活動支援

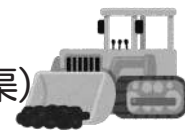
## 2. 食農イメージアップ推進

- ・学習田設置
- ・学校給食食材提供
- ・南幌町特産品消費拡大
- ・JA特産品推進事業
- ・各種イベントに係る費用
- ・クリーン農業の取組継続



## 3. 生産性向上・水張等機能再生支援

- ・土壌診断に基づく土壌改良に対し支援
- ・透排水性の向上に資する施工（暗渠、明渠、無材暗渠、自力暗渠）
- ・田畑輪換など輪作に必要な圃場整地費用に対し助成



## 4. 先進的機能活用営農支援

- ・適正土壌に向けた土壌分析結果データ化
- ・営農管理統合システム委託料



## 5. 生産品向上等に対する取組へ支援

- ・大豆生産助成（良品加算・汚粒クリーナー助成）
- ・米高品質助成（YES!clean助成）



## 6. 野菜作付振興支援

- ・新品種、加工業務用作付け等に向けた試験等へ支援
- ・新規野菜品目作付支援
- ・野菜生産奨励支援
- ・長ねぎ共選場利用促進支援
- ・消費者収穫感謝祭等イベント経費



# 作付計画面積

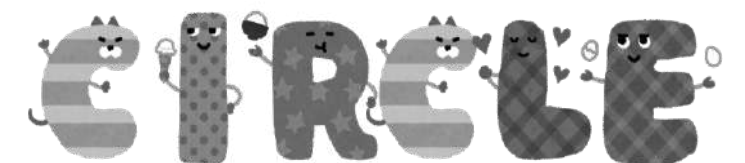


(単位: ha)

区	分	基準年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
水 稲	主 食 用 米	1,757	1,855	1,823	1,823
	主 食 用 米 以 外	283	240	242	242
水 稲 合 計		2,040	2,095	2,065	2,065



区	分	基準年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
小 麦	秋 小 麦	1,714	1,727	1,700	1,700
	うち 普通畑	71	76	84	84
	春 小 麦	145	142	145	145
	うち 普通畑	11	15	11	11
豆 類	大 豆	651	597	624	624
	うち 普通畑	23	11	24	24
	小 豆	51	34	50	50
蔬 菜	キ ャ ベ ツ	26	25	26	26
	長 ね ぎ	35	36	36	37
	ピ ー マ ン	1	1	1	1
	ブ ロ ッ コ リ ー	21	20	20	20
	玉 ね ぎ	28	28	28	28
	ス イ カ	5	4	4	4
	そ の 他	52	49	49	49
そ の 他	甜 菜	58	52	55	55
	うち 普通畑	0	20	5	0
	地 力 増 進 作 物	92	99	100	90
	そ の 他 畑 作 物	162	147	147	147
転 作 圃 場 計		3,041	2,961	2,983	2,973





## 販売取扱高目標

(単位:千円)

品目	単位	基準年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
		数量	販売高	数量	販売高	数量	販売高	数量	販売高	
米	俵	159,800	2,909,998	187,515	3,020,834	184,147	2,446,092	184,147	2,446,092	
小麦	t	10,140	1,420,164	11,409	1,404,981	10,966	1,444,534	10,996	1,444,534	
大豆	俵	23,355	226,809	20,221	162,646	19,150	157,800	19,150	157,800	
小豆	俵	1,981	53,814	1,364	34,100	2,000	50,000	2,000	50,000	
小計		—	4,610,785	—	4,622,561	—	4,098,426	—	4,098,426	
蔬菜	キャベツ	t	1,505	116,559	1,375	110,425	1,463	113,775	1,525	117,550
	軟白長ねぎ	t	4	1,772	4	1,500	7	3,000	7	3,000
	露地長ねぎ	t	640	249,145	740	264,168	752	268,503	765	272,838
	ピーマン	t	78	39,832	86	33,604	106	39,016	106	39,016
	ブロッコリー	t	230	90,692	180	70,200	157	61,074	157	61,074
	玉ねぎ	t	472	50,953	900	58,000	750	55,000	750	55,000
	スイカ	t	244	69,243	178	48,060	140	32,200	140	32,200
	その他	t	—	23,553	—	29,300	—	27,420	—	27,420
	小計		—	641,749	—	615,257	—	599,988	—	608,098
花卉	千本	216	15,530	256	20,480	288	23,040	288	23,040	
甜菜	t	4,838	41,593	1,978	21,233	3,465	37,192	3,465	37,192	
生乳	t	246	27,380	18	2,074	18	2,074	18	2,074	
その他	—	—	17,726	—	11,584	—	19,464	—	19,411	
過年度産追加精算金	—	—	362,359	—	229,110	—	196,432	—	196,133	
合計		—	5,717,123	—	5,522,299	—	4,976,616	—	4,984,374	
うち直接支払交付金		—	1,097,496	—	1,072,343	—	1,131,692	—	1,131,692	

※基準年度は、令和6年度実績数値

## 資材・燃料事業

### 組合員満足度向上と、 職員の働きやすい環境作りに取り組みます

- ・部署間での密な連携により細やかな組合員対応
- ・システムの導入による業務効率化の検討
- ・資材品倉庫の円滑な確保

### 持続可能な燃料事業運営に取り組みます

- ・人員確保によるピット営業の存続
- ・将来を見据えた設備の更新
- ・LPGの保安管理レベル向上による安心安全の提供



## 信用・共済事業

### 利用者に信頼され親しみのある JAバンクづくりに取り組みます

- I. 推進の強化によりつながりを深め、相談機能とサービスの向上による事業基盤を拡大
- II. 利用者属性に応じた貯金商品・ローン商品の新設・拡充
- III. 貯金や融資取引にかかる手数料の見直しを検討

### 利用者のニーズに沿った総合保障を提供します

- I. 既契約者のニーズに沿った契約見直しと保障充実の提案
- II. 満期到来に向けた継続保障と金融商品を総合的に提案

## 内部監査・総務事業

### JAの組織基盤の強化と 健全な経営基盤の確立に取り組みます

- I. 収益性の高い資金運用による収益の確保、支出している費用内容の検証
- II. デジタル技術を活用した効率化の推進および生産性向上の取り組み
- III. 事業継続に必要な人材の確保と定着のための取り組み

## 固定資産整備計画

(単位:千円)

年度	整備計画概要	事業費
令和7年度	PCB処分伴う高圧機器の更新	16,000
	倉庫屋根塗装(夕張太5号)	6,000
	長ねぎ選果場高圧受変電設備改修	7,150
	エーコープ改装工事	20,000
	麦富21自主検定装置オーバーホール	3,000
	スプレー洗車機(2台)	4,000
	公用車3台	5,972
	タブレットパソコン等更新(50台)	11,955
	小麦横型フレコン、米麦保管用コンテナ	18,280
	その他	10,267
	小計	102,624
	令和8年度	雑穀等集出荷貯蔵センター
倉庫屋根塗装(10号)		2,000
エーコープ地下貯蔵タンク流出事故防止対策		1,800
灯油計量機(セルフ)		6,000
大豆自主検装置		5,000
種子温湯消毒装置		12,271
フォークリフト(1台)		5,000
小麦横型フレコン、米麦保管用コンテナ		11,500
その他		4,883
小計		548,454
令和9年度		倉庫屋根塗装(3号、7号、夕張太3号)
	エーコープ屋上防水改修工事(1F屋上)	16,000
	麦富21色彩選別機	74,000
	米夢21・麦富21フレコン出荷計量機	15,000
	コイン精米機	5,000
	小麦横型フレコン、米麦保管用コンテナ	11,500
	その他	3,342
	小計	132,842

◀今回の中期計画中に検討を行う施設等▶ ・米夢21ロボットパレタイザー  
・米夢21出荷製品包装機一式

## 事業収支計画

(単位:千円, %)

部門	年度	基準年度	令和7年度		令和8年度		令和9年度	
			計画		計画		計画	
			金額a	金額b	対比b/a	金額c	対比c/a	金額d
信用		137,638	129,708	94.2	125,487	91.2	124,931	90.8
共済		81,994	87,300	106.5	87,200	106.4	86,300	105.3
販売		153,472	143,499	93.5	149,710	97.6	150,005	97.7
資材		169,804	144,987	85.4	145,900	85.9	147,900	87.1
燃料		71,498	53,502	74.8	52,284	73.1	51,918	72.6
生活		14,741	13,299	90.2	14,636	99.3	13,724	93.1
保管		77,423	92,754	119.8	96,209	124.3	95,516	123.4
共調		85,533	93,645	109.5	96,770	113.1	98,980	115.7
営農		2,901	▲ 2,026	▲ 69.8	▲ 2,490	▲ 85.8	▲ 2,490	▲ 85.8
事業総利益		795,004	756,668	95.2	765,706	96.3	766,784	96.5
事業管理費		722,922	746,101	103.2	747,019	103.3	762,197	105.4
事業利益		72,081	10,567	14.7	18,687	25.9	4,587	6.4
事業外収益		50,168	46,677	93.0	44,983	89.7	45,731	91.2
事業外費用		30,209	21,934	72.6	25,403	84.1	22,543	74.6
経常利益		92,040	35,310	38.4	38,267	41.6	27,775	30.2
特別利益		46	2,675	-	1,772	-	4,937	-
特別損失		0	0	-	0	-	0	-
当期剰余金		92,086	37,985	41.3	40,039	43.5	32,712	35.5

※基準年度は令和6年度実績数値

## 経営諸比率表

(単位:千円, %)

区分	年度	基準年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
職員数	b	59	60	60	60
総資本	c	28,533,298	29,093,710	29,113,798	29,208,168
自己資本	d	3,144,677	3,139,102	3,161,334	3,172,147
うち出資金	e	1,005,495	1,006,166	1,011,131	1,015,169
固定資産	f	1,014,586	1,018,562	1,462,490	1,482,426
外部出資	g	1,357,937	1,357,937	1,357,937	1,357,937
人件費	h	436,283	442,860	445,267	448,160
預金(平残)	i	21,406,533	24,011,301	23,293,700	23,449,940
有価証券(平残)	j	119,868	197,680	197,862	198,048
貸付金(平残)	k	2,694,250	2,660,168	2,624,227	2,579,320
貯金(平残)	l	23,893,474	24,206,499	24,168,726	24,092,726
労働生産性	(a-h)/b	6,080	5,230	5,341	5,310
自己資本比率	-	25.15	25.43	25.63	25.73
固定比率1	d/(f+g)	132.55	132.09	112.09	111.68
固定比率2	d/f	309.95	308.19	216.16	213.98
貯貸率	k/l	11.28	10.99	10.86	10.71
貯預率	i/l	89.59	99.19	96.38	97.33
貯証率	j/l	0.50	0.82	0.82	0.82

人件費=給料手当+法定福利費+厚生費